

報道関係各位

富山県の伝統的な祭り「越中おわら風の盆」を 八尾の町中で完全再現したクラブツーリズム独占企画 第14回「月見のおわら」開催

9月23日(金・祝)・9月24日(土)の2日間で6,248名が参加

クラブツーリズム株式会社(東京都新宿区、代表取締役社長:岡本邦夫、以下クラブツーリズム)は、富山県の伝統的な祭り「越中おわら風の盆」を八尾の町中で完全再現し、町内観光客数を制限することにより快適に鑑賞できる環境を整えた独占企画「月見のおわら」を9月23日(金・祝)、24日(土)に開催しました。初の連休期間に開催となった今年は、日本全国から約6,248名の方々が参加し、風情のある町並みの中、幻想的なおわらの踊りと音楽に興じました。

この「月見のおわら」は、クラブツーリズムが八尾町の各町、越中八尾観光協会、おわら保存会の賛同・協力を得て独自に開催するイベントで、1998年に始まり今年で14回目を数えました。毎年9月1日～3日に開催される「おわら風の盆」の本祭は、多くの観光客による混雑で演技が妨げられたり、鑑賞しづらいなどの問題点を抱えていました。このような状況を背景として、クラブツーリズムが八尾町の各町・越中八尾観光協会・おわら保存会に協力を仰ぎ、「おわら風の盆」の情緒や風情を大切にしながら、観光客、演技者双方が楽しめ、満足できる「月見のおわら」を企画、実施しています。

参加者からは「初めて『月見のおわら』を鑑賞したが、踊りをしっかりと見ることができて満足している」や「町内によって、踊り方(連の組み方)や浴衣の柄が異なり、それぞれに個性が感じられておもしろかった。街並みもすばらしい。クラブツーリズムの企画『月見のおわら』が、町おこしになっている点もすばらしいと思った」といった感想が寄せられています。

また、越中八尾観光協会の福島順二会長氏は、今回の開催を終えて、次のように述べています。「『月見のおわら』は今回で14回目を迎えました。この催しを開始した当初は、ステージ上で踊りを披露するのみでしたが、『月見のおわら』でも本来のおわらを再現できないかという声に、地元が一体となって応え、現在に至ります。地元の理解を得るには、紆余曲折、さまざまな苦労もありましたが、クラブツーリズムの思いと、地元の思いが一つになり、ここまでイベントが育ち、継続できたことが、とても嬉しく思います。来年も地元の共感を得ながら、15周年を迎える「月見のおわら」を、記念すべき内容につくりあげていきたいと思います。」

クラブツーリズムは、今後も、クラブツーリズムと地元地域が一体となって企画・運営を行う「地域振興オリジナルイベント」に取り組み、ツアーを催行していきます。

◆本件に関するお問い合わせ

クラブツーリズム 広報担当: 株式会社プラップ ジャパン 担当: 中村 由帆、加藤 理恵子

TEL: 03-3486-6839 FAX: 03-3486-0584 E-mail: club-tourism@ml.prap.co.jp

クラブツーリズム株式会社 総務部広報課 担当: 久保田 智子、木村 佳世

TEL: 03-5323-6875(月～金 9:15～17:30/土日祝除く) FAX: 03-5323-6956 E-mail: ctpr@club-tourism.co.jp

<参考資料>

クラブツーリズム独占企画「月見のおわら」



第14回「月見のおわら」の様子

本祭「おわら風の盆」とは

「おわら風の盆」は、富山県富山市八尾町(やつおまち、中央部)で毎年9月1日から3日にかけて町をあげて行われる民謡行事で、元禄15年(1702年)町内総出で3日間歌い、踊りまわったのが最初と伝えられています。旧町と呼ばれる「東新町、西新町、諏訪町、上新町、鏡町、東町、西町、今町、下新町、天満町」と「福島」を合わせた合計11の町で行われます。「町流し」と言われる踊りは、11の町が自分の町を中心にそれぞれ自主的に行っており、一堂に会するような事はありません。従って、観客が自分の鑑賞したい町へ出向き、踊りが行われるのを待つスタイルのお祭りです。故弓や三味線の音に合わせ、優美で幻想的な踊りが繰り広げられます。3日間で約20万人が訪れる人気の高い祭りです。

「おわら風の盆」ホームページより一部抜粋(<http://www.yatsuo.net/kazenobon/>)

「月見のおわら」とは

「月見のおわら」は、八尾町の各町、越中八尾観光協会、おわら保存会の賛同・協力を得て、「おわら風の盆」を中秋の名月の時期に再現するイベントです。「諏訪町」をはじめとする八尾の町を会場として貸し切り、2時間にわたって、踊り手と地方(じかた)が一団となって、唄い踊りながら町内を練り歩く「町流し」や、地方(じかた)を中心にして踊り手たちが輪を作って踊る「輪踊り」を披露し、「おわら踊り」本来の風情を味わえる企画です。1998年から開催され、今年で第14回目を迎えます。

「月見のおわら」はクラブツーリズムのツアーが独占開催するイベントですが、当日個人で参加している方や八尾町在住の方々が観ることを排除するものではありません。クラブツーリズムのお客様と地元の方々が共に楽しみ、感動を分かち合うことができるイベントです。地域との交流だけでなく、地域活性に繋がっていることもこのイベントの特徴です。

クラブツーリズム「月見のおわら」ツアーページ(<http://www.club-t.com/special/japan/owara/>)

「月見のおわら」開催の背景

「おわら風の盆」が開催される3日間には、八尾町人口の約30倍以上にあたる約20万人の観光客が集中して訪れるため、大混雑を招いています。見学者の増大により、観光客からは「満足に風の盆が見られなかった」「混雑ばかりが目立って満足できなかった」といった声が寄せられるなど、祭りを十分に堪能できていない状況があります。また、一部の心無い観光客が、その不満を踊り手に直接ぶつけるなど、祭りの風情が損なわれる事態も発生しています。

このような状況の中、「ゆっくり風の盆を見学したい」という声を反映して企画されたのが「月見のおわら」です。1997年の「ナホトカ号の重油流出事故」の風評被害により、大きなダメージを受けた「北陸の観光を復活させる」ことをテーマとし、ツアー客には快適かつ情緒あふれる風情の中でおわらを鑑賞できる環境を提供し、八尾の方々には演技に集中できる環境、および八尾の町への経済効果を生む仕組みづくりをし、双方が満足できるイベントへと年々育ってきています。